Clear cell を主体とする唾液腺腫瘍

大阪大学大学院歯学研究科口腔病理
岸野万伸

唾液腺腫瘍において clear cell を伴う腫瘍は多く、病理組織診断をする上でその性格を把握することは重要である。唾液腺組織に原発する腫瘍の中で、clear cell が増殖の主体となりうる病変として以下のものが挙げられる。

① Epithelial-myoepithelial carcinoma
② Myoepithelioma / Myoepithelial carcinoma
③ Clear cell carcinoma, NOS
④ Mucoepidermoid carcinoma
⑤ Acinic cell carcinoma
⑥ Oncocytoma

また、唾液腺組織に原発する腫瘍以外では、malignant melanoma や renal cell carcinoma の転移の可能性、また希ではあるが clear cell odontogenic carcinoma や clear cell sarcoma の可能性も考慮に入れる必要がある。

唾液腺原発腫瘍の鑑別を考えた場合、上記の①ー⑥で、まず clear cell 以外の組織構築に目を向けてみると、①では通常 ductal lumen が存在しており、②は plasmacytoid cell や spindle cell が混在している場合がある。また、④では組織化学的に mucous cell が確認でき、⑤は acinar cell の充実性増殖を伴うことがあり、⑥には non-cleared oncocyte が認められる。免疫組織化学的に clear cell は、①や②では通常筋上皮マーカー（α-SMA や Calponin）の発現がみられる。③の clear cell carcinoma, NOS は 2005 年の WHO 分類に新たに組み込まれたもので、他の clear cell を含む腫瘍型に特徴的な組織像を欠いている。腫瘍は clear cell の均一なシート状あるいは索状増殖からなり、ductal lumen や mucous cell は通常認めず、免疫組織化学的には筋上皮マーカーの発現はみられない。

唾液腺原発の clear cell を主体とする腫瘍は、通常低悪性である場合が多いが、正確な診断と腫瘍全体を組織学的に評価することが重要である。そこで、clear cell を主体とする唾液腺腫瘍として、clear cell carcinoma, NOS、myoepithelial carcinoma、mucoepidermoid carcinoma、epithelial-myoepithelial carcinoma 等の症例を提示し、それらの鑑別診断について報告する。